

Graphtec Studio 2 操作説明書

画像データの印刷に合わせてシールをカットしたい場合（Windows 版）

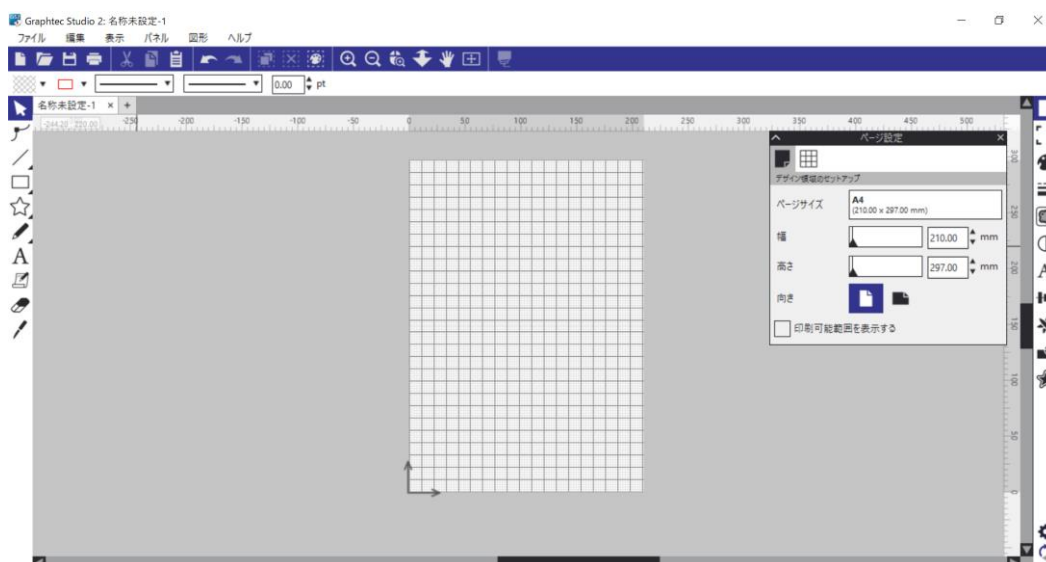
本資料では、Graphtec Studio 2 を使用して画像データからアウトラインを抽出してカットを行う場合の操作について説明致します。

操作前に別途資料「Graphtec Studio 2 インストール、カッティングプロッターの登録方法について（Windows 版）」を参照の上、Graphtec Studio 2 のインストール、並びにカッティングプロッターの登録作業を実施して下さい。

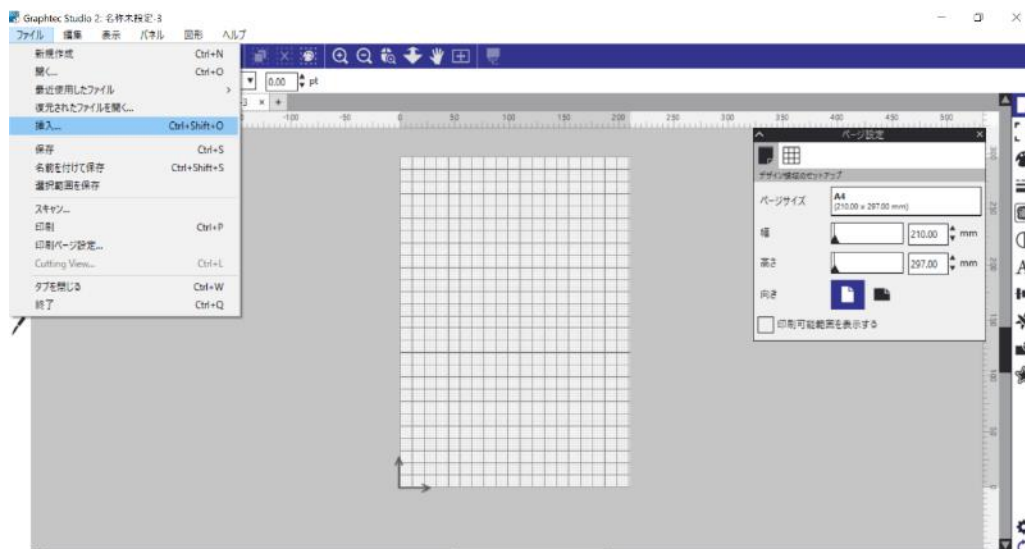
以降の説明は、画像データから自動的にアウトラインを作成し、位置あわせマーク（トンボ）を使って印刷された画像データの周りをカットする方法について説明します。

1) 画像データからカットデータを作成するまで

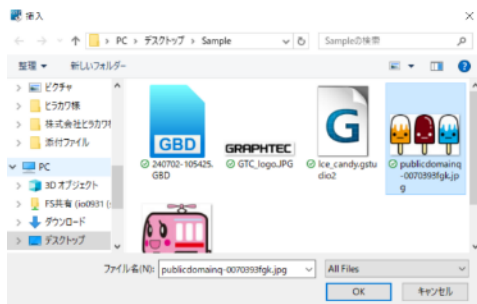
- ① 「2. モデルの追加」で追加した図形を選択、削除し、ページサイズを「A4」、向きを「縦」を設定します。



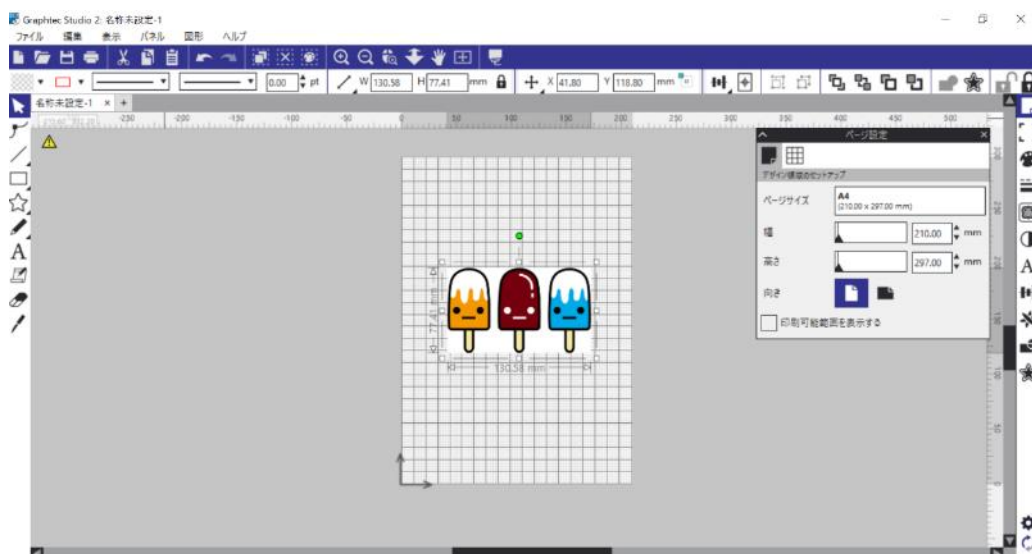
- ② 「ファイル(F)」から「挿入…」を選択します。



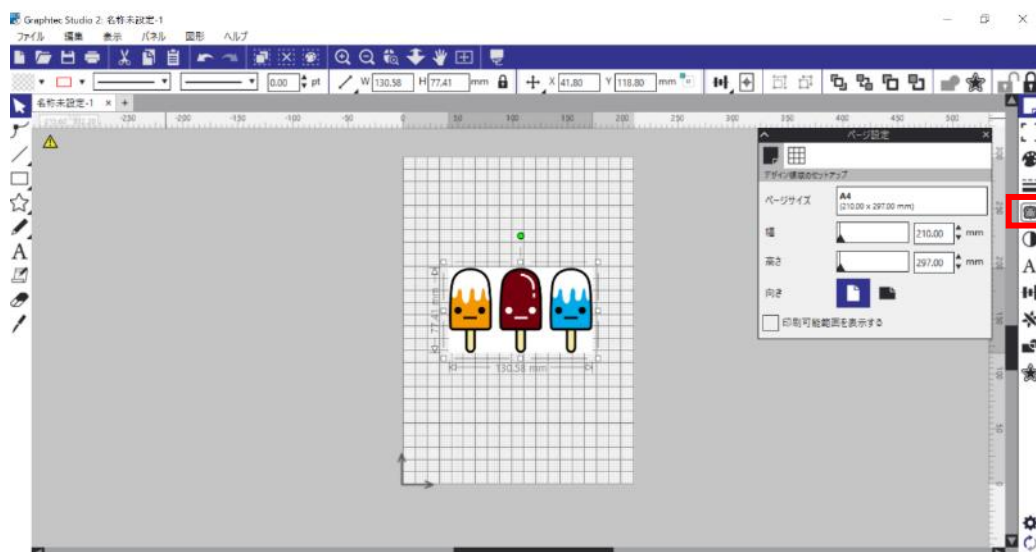
- ③ 開きたい画像ファイルを選択し、[OK] をクリックします。



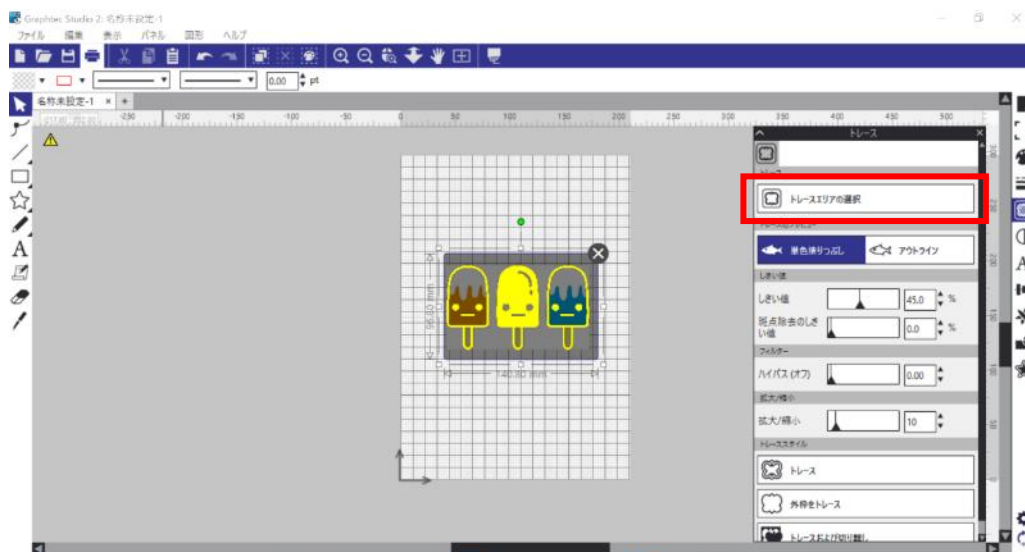
- ④ 画像のファイルが貼り付きます。サイズの調整は、画像の周りに表示される 8 個の四角のコントロールハンドルをクリックしてドラッグすることで調整できます。また、回転したい場合は、緑の丸の回転コントロールハンドルをクリックしてドラッグすることで回転できます。



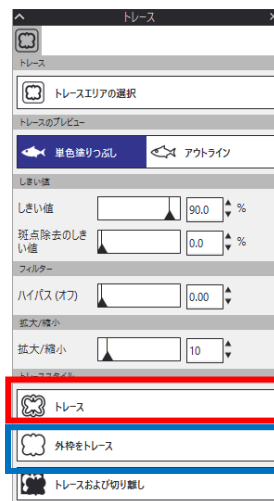
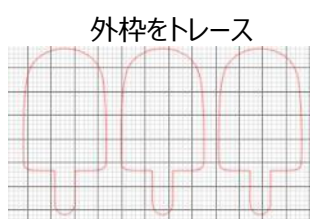
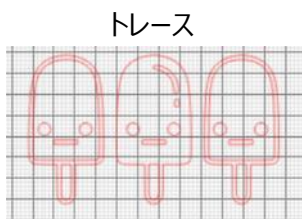
- ⑤ 「パネル表示」から「トレースパネル」(下図赤枠内)を選択して、「トレース」パネルを表示します。



「トレースエリアの選択」(下図赤枠内)をクリックして、画像の周囲をドラッグして選択すると画像の内側が黄色に塗り潰されます。黄色に塗り潰された部分がトレースされます。



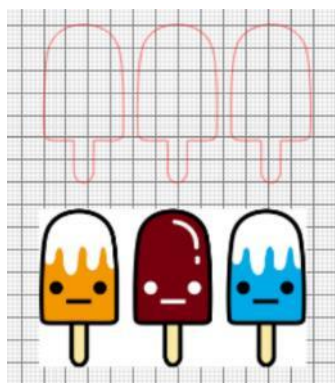
- ⑥ トレース方法を選択します。
 画像全体にカットラインを作成したい場合は、「トレース」(右図赤枠内)を選択します。
 画像の外側だけにカットラインを作成したい場合は、「外枠をトレース」(右図青枠内)を選択します。
 カットラインは、赤色で表示されます。
 黄色に塗り潰された部分がトレースされます。



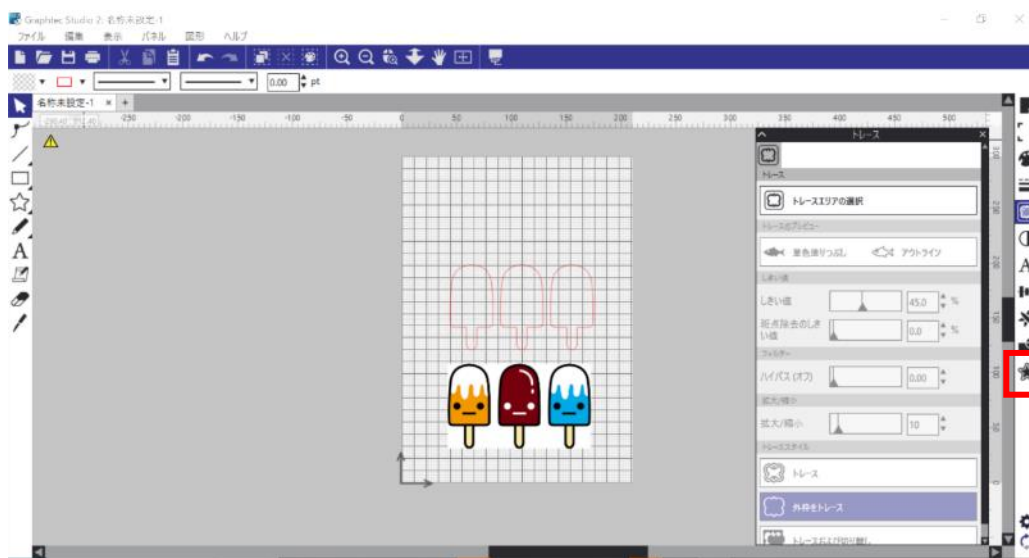
上の図はカットラインを判別する為に画像を省略しております。実際には以下のように画像と共に生成したカットライン(赤い線)が表示されます。



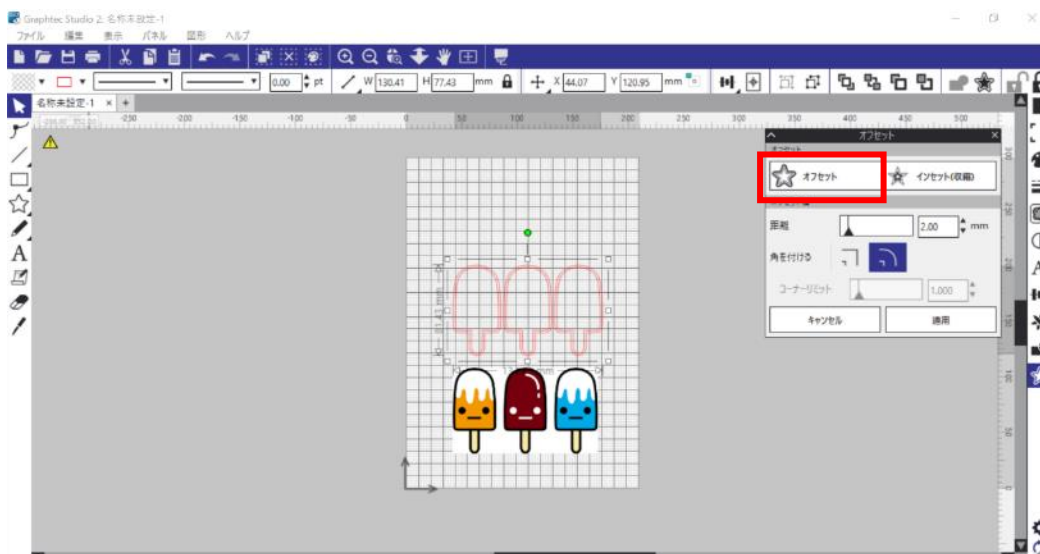
- ⑦ 画像とのマージンを持たせるため、外側にオフセットしたカットラインを作成します。
 カットラインを編集しやすいように画像部分をドラッグして、カットラインと重ならない位置に移動させて下さい。



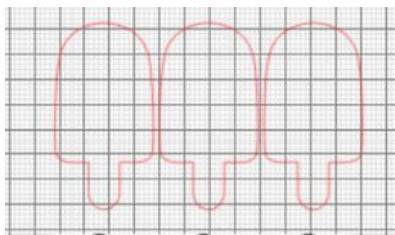
- ⑧ 「パネル表示」から「オフセット」パネルを選択して、「オフセット」パネルを表示します。



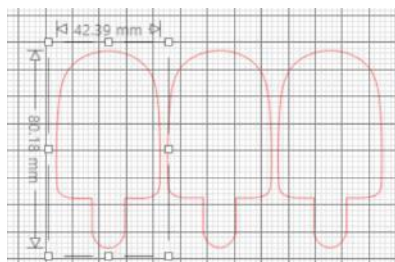
- ⑨ カットラインを選択し、「オフセット」(下図赤枠内) をクリックすると初期設定で 2 mm外側にカットラインが新たに作成されます。オフセット位置を変更したい場合は距離の数値欄に変更したい数値を入れ、「適用」ボタンを押して変更して下さい。



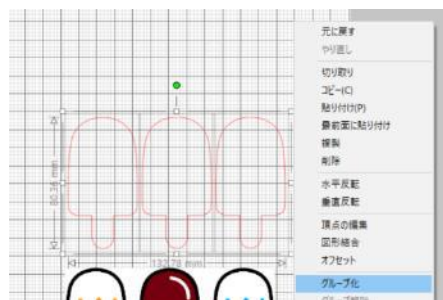
- ⑩ 内側のカットラインを選択、右クリックして表示されるメニューから「削除」を選択し、削除します。
(選択後、DEL キーを押しても削除できます。)



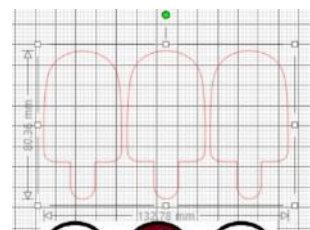
生成されたカットラインがグループ化されていない場合は、カットライン全体を選択し、右クリックして表示されるメニューから「グループ化」を選択してグループ化して下さい。画像データとの位置合わせの為に必要となります。



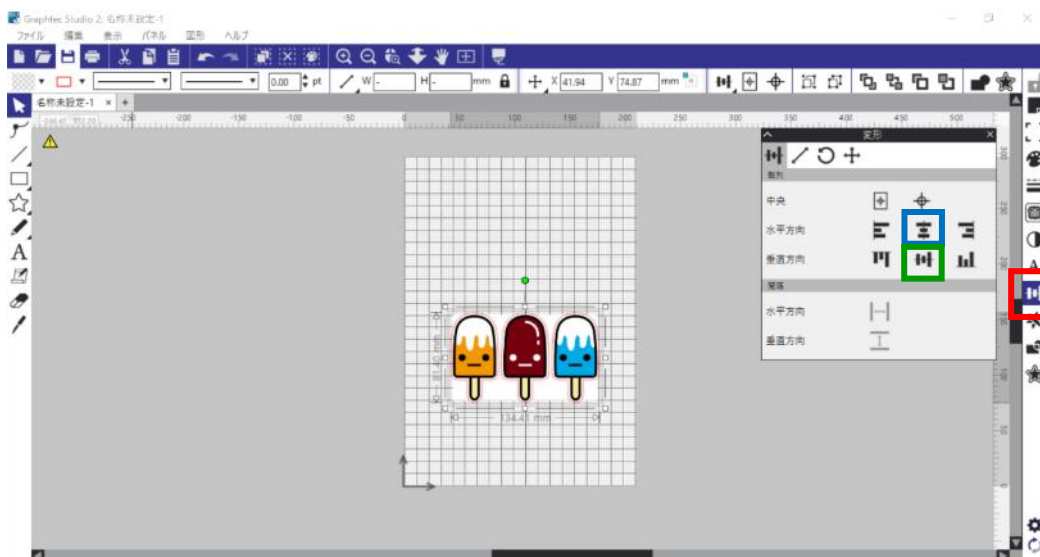
グループ化されていない場合は、左図のように線が個別に選択されます。



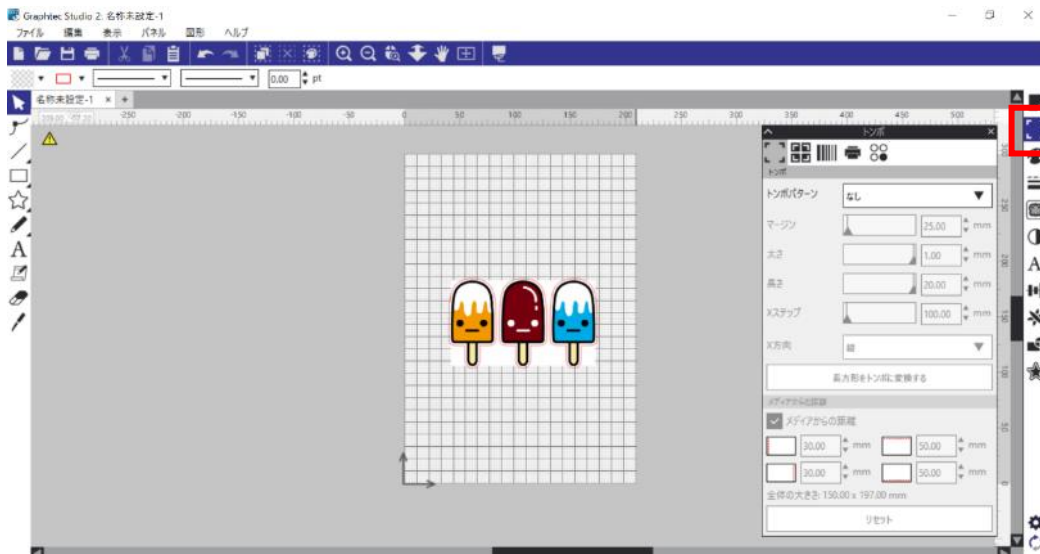
左図の操作にてグループ化すると、右図のようになります。



- ⑪ 「パネル表示」から「変形」パネル（下図赤枠内）を選択して、「変形」パネルを表示します。
カットラインと画像を選択して、「整列」項目から「水平方向」（下図青枠内）と「垂直方向」（下図緑枠内）ともに中央揃えを選択します。



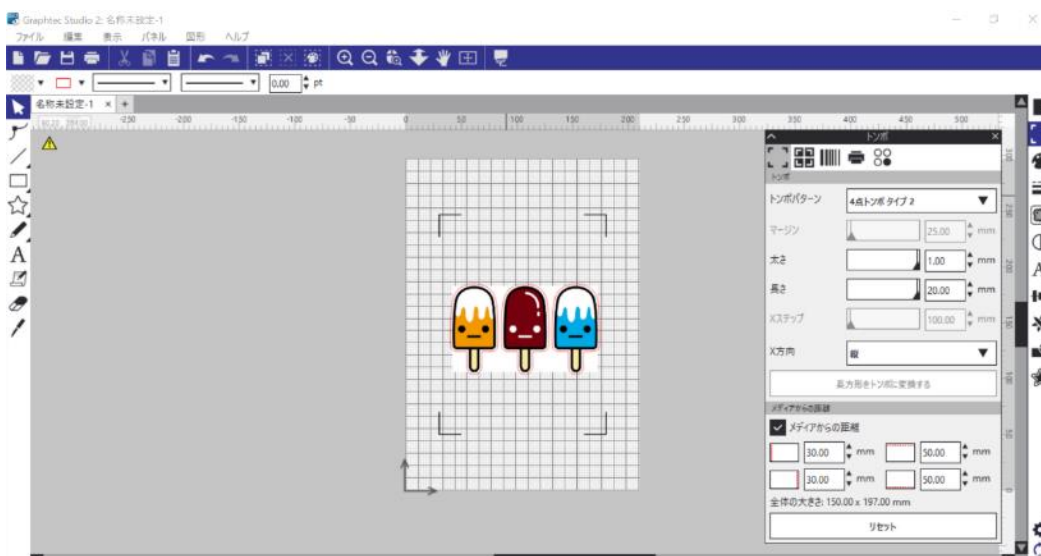
- ⑫ 「パネル表示」から「トンボ」パネル（下図赤枠内）を選択して、「トンボ」パネルを表示します。



- ⑬ 「トンボ」タブを選択して、トンボのタイプ、太さ、長さを指定します。
「メディアからの距離」にチェックを入れて、メディアの端からトンボを配置したい距離を入力します。



- ⑭ デザイン画面上にトンボが作成されます。

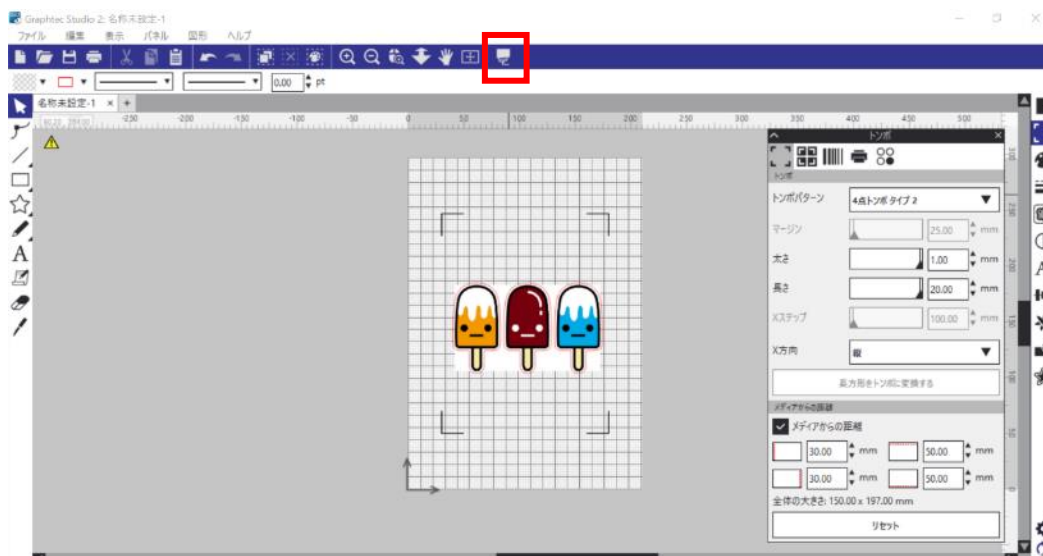


※トンボを配置する際には、余白を設ける必要がありますのでご注意ください。
機種別の必要な余白につきましては本資料末尾の「[補足資料 1：メディアとトンボの配置](#)」、
「[補足資料 2：※トンボ検出に必要な読み取り範囲](#)」をご参照下さい。

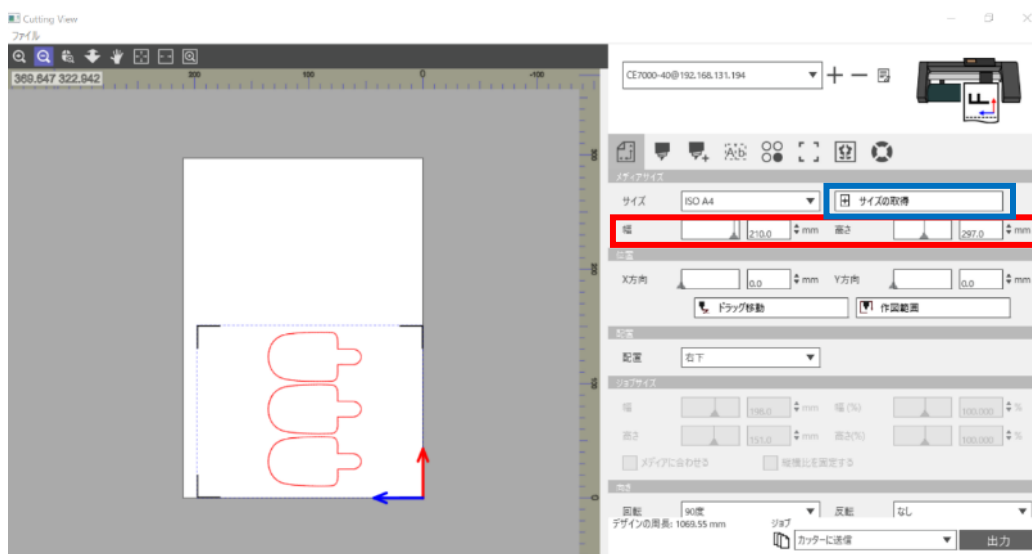
- ⑮ プリント&カットするためのデザインデータをお手持ちのプリンターでラベル紙などに印刷します。
印刷メニューからプリンターを選択して作成したデータを印刷します。
印刷後、印刷したメディアをアプリ上のデザインの向きでプロッターにセットします。

2) 印刷したシールのセットとカットまで

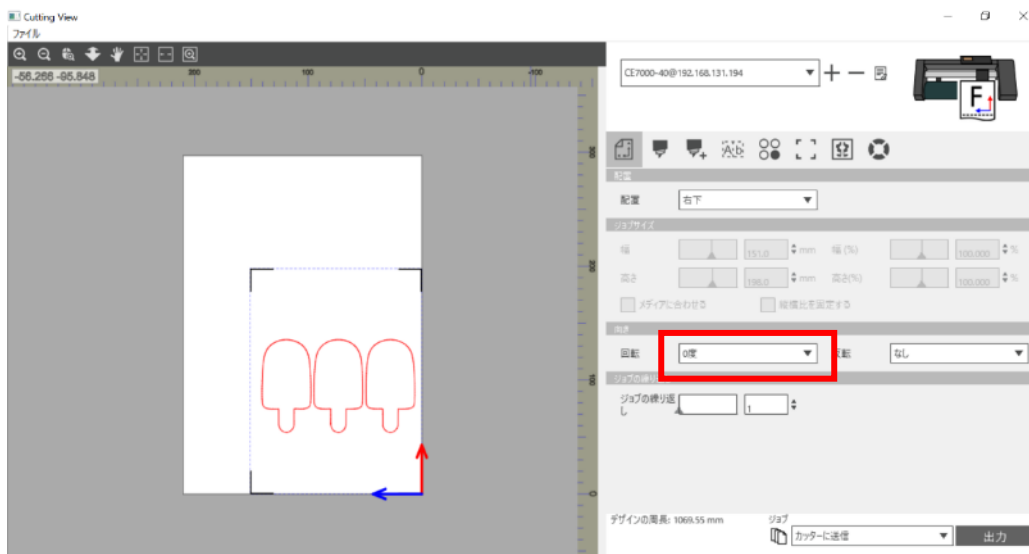
- ⑯ 「Cutting View を開く」のアイコン  をクリックして Cutting View 画面を開き、メディアサイズを設定します。



プロッターのメディアサイズが判っている場合は「幅」と「高さ」を入力しても良いのですが、プロッターが接続されている場合は、「サイズの取得」を選択することでプロッターにセットされているメディアのサイズが自動的に表示されます。

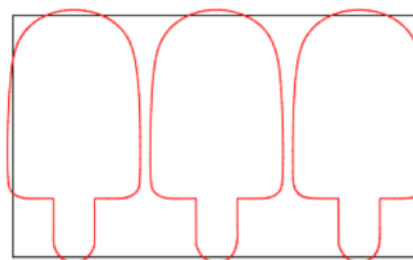
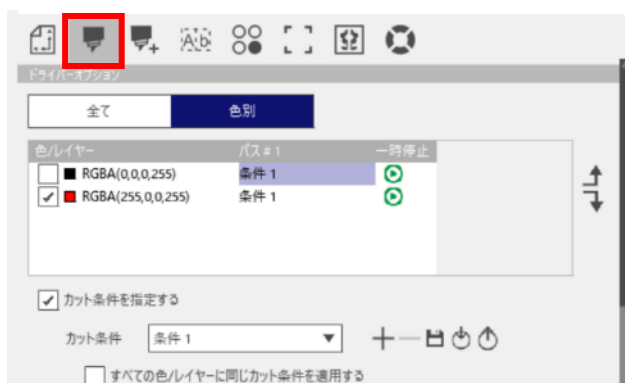


- ⑰ メディアのセット方向を合わせるために回転を「0°」に設定します。



※回転が設定できるのは4点トンボの場合のみです。
4点トンボ以外の場合は、プレビューの向きに合わせてメディアをセットしてください。

- ⑱ 「オプション」タブ（下図赤枠内）を選択します。
「色別」を選択して、カットする色のみにチェックが入った状態にします。



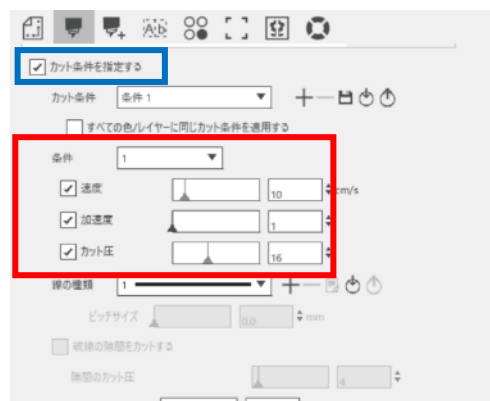
※Cutting View 画面で上図のように画像部分の周囲に黒枠が表示された場合は黒のレイヤーのチェックを外して下さい。


- ⑲ カuttingプロッターに設定されている条件でカットしたい場合は、「カット条件を指定する」（青枠内）のチェックを外します。

このまま出力するとCuttingプロッター側で設定、選択された条件でカットされます。



カッティングプロッターで設定されている値を変更したい場合は、「カット条件を指定する」(青枠内)にチェックを入れ、この画面で条件、速度、加速度、カット圧など(赤枠内)を設定することでカッティングプロッターにも反映されます。(*1)
(右設定画面にて「条件」で選択する数字は本体側コンディションの番号となります。)



設定後、カット条件の右  アイコンを押すと設定した条件を保存出来ます。

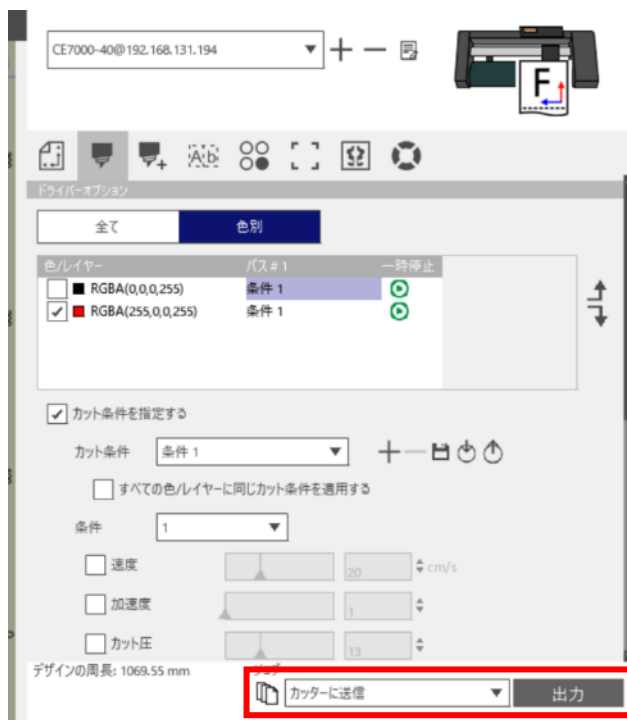
※カッター刃等、ツールのタイプの設定は本体、又は Graphtec Studio 2 と一緒にインストールされる「Remote Panel Utility」で行ってください。

***1 設定通りに動作しない場合は、カッティングプロッターのツール条件設定の優先度を「プログラム」に変更して下さい。
変更方法はご利用頂いている製品の取扱説明書をご参照下さい。**

「出カオプション」の設定は、「プロット後メディアを送る」(緑枠内)にチェックすると、シートでセットした場合は、カット終了時、セットしたメディアを送り、プロッターのLCD にメディアの交換メッセージが表示されます。チェックを外すとメディアがセットされた最初の位置にツールが戻ります。



- ② 「カッターに送信」を選択して、「出力」ボタンを押します。
トンボの検出が始まり、全てのトンボを検出し終わるとカットを開始します。



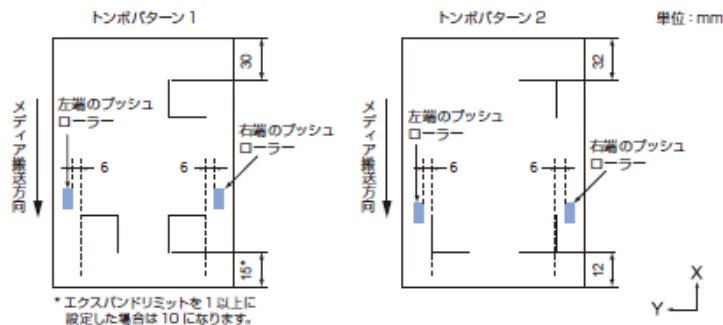
補足資料 1 : メディアとトンボの配置

・CE6000 PLUS シリーズ

(*この機種 of Graphtec Studio2 の対応状況は動作確認のみ、動作保証なしとなっております。)

メディアとトンボの配置

トンボを読み取るには、メディアの端に余白をとってトンボを配置します。
 プッシュローラーの位置は、必ずトンボの外側に配置してください。
 次の図のようにトンボを描いてください。



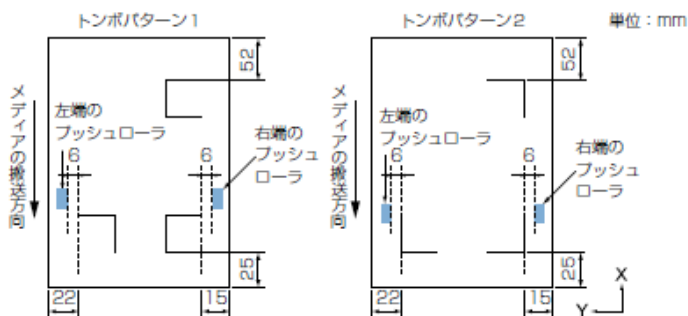
※カッティング用台紙を使用した場合は、用紙の端から 6mm 以上の距離となります。

・FC8600 シリーズ

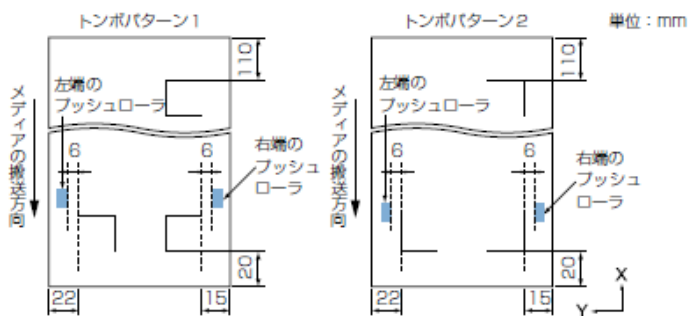
(*この機種 of Graphtec Studio2 の対応状況は動作確認のみ、動作保証なしとなっております。)

メディアとトンボの配置

トンボを読み取るには、メディアの端に余白をとってトンボを配置します。
 シート紙の場合は、次の図のようにトンボを描いてください。



ロール紙では次の図のように、メディアの後方から110mm以上あけてトンボを描いてください。



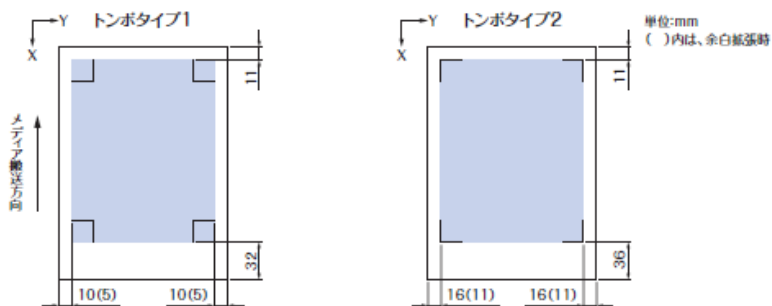
[<元のページに戻る>](#)

CE LITE-50

(*この機種の Graphtec Studio2 の対応状況は動作確認のみ、動作保証なしとなっております。)

トンボの配置位置

トンボは、メディアの端に余白をとって配置します。

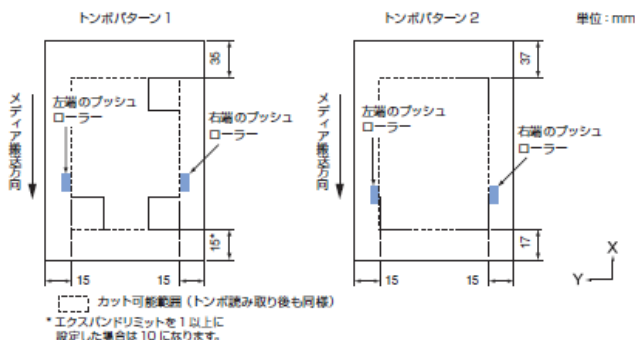


※カッティング用台紙を使用した場合は、用紙の端から 6mm 以上の距離となります。

CE7000 シリーズ/CE8000 シリーズ/FC9000 シリーズ

メディアとトンボの配置

トンボを読み取るには、メディアの端に余白をとってトンボを配置します。
 プッシュローラーの位置は、必ずトンボの外側に配置してください。
 次の図のようにトンボを描いてください。



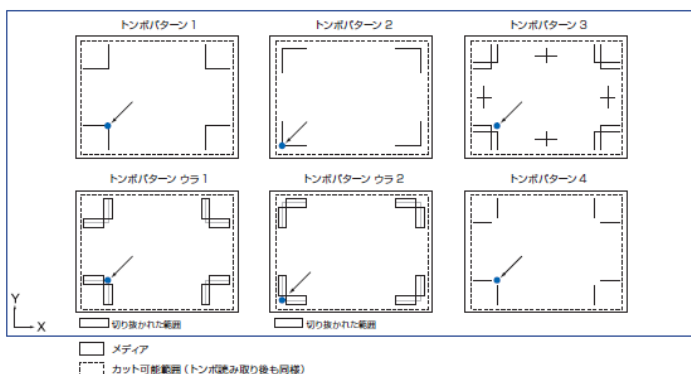
※CE7000 シリーズ、CE8000 シリーズでカッティング用台紙を使用した場合は、用紙の端から 6mm 以上の距離となります。

FCX4000 シリーズ/FCX2000 シリーズ

トンボ補正時のカット可能範囲

トンボ補正時でも、トンボの外側 (カット可能範囲) までカットするとができます。

補足
 補正による歪みが大きい場合、カット可能範囲は小さくなる場合があります。



[<元のページに戻る>](#)

補足資料 2 : ※トンボ検出に必要な読み取り範囲

CE6000 PLUS シリーズ

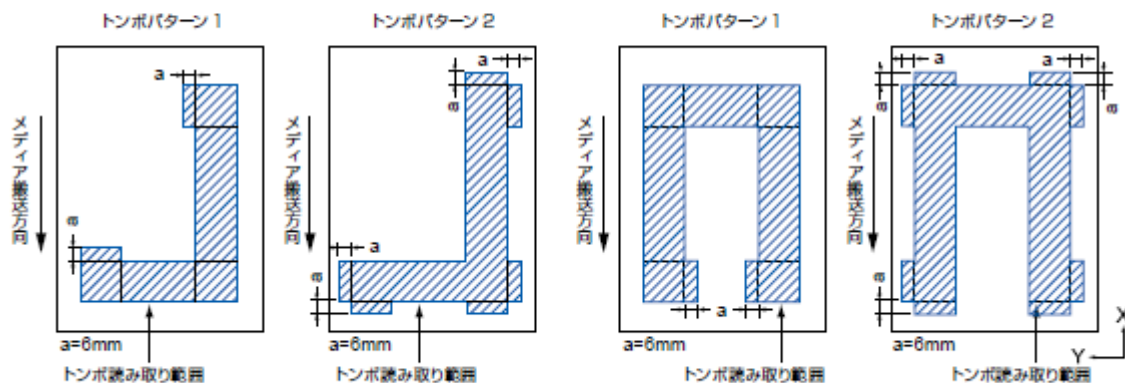
(*この機種 of Graphtec Studio2 の対応状況は動作確認のみ、動作保証なしとなっております。)

トンボ検出に必要な読み取り範囲

トンボを読み取るために、ツールキャリッジとメディアが移動するのに必要な範囲は、次の図のとおりです。
 下図の斜線部分には、プリントしないでください。

< 3 点トンボの場合 >

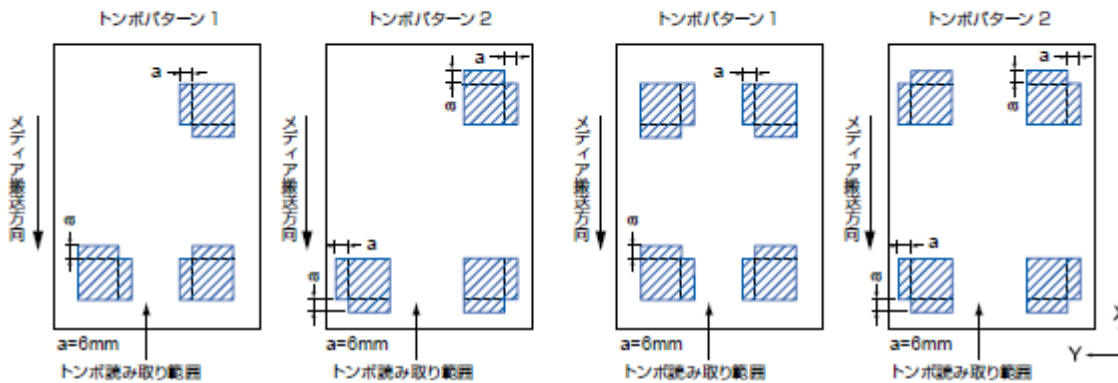
< 4 点トンボの場合 >



トンボ検出移動距離を設定した場合は、トンボ読み取りに必要な範囲は次の図のようになります。
 下図の斜線部分には、プリントしないでください。

< 3 点トンボの場合 >

< 4 点トンボの場合 >



補足

- トンボの形状 (パターン) の変更は、「トンボの形状 (パターン) を設定する」▶P5-11 を参照してください。
- トンボ検出移動距離の設定は、「トンボ検出移動距離を設定する」▶P5-14 を参照してください。
- トンボ読み取り範囲にトンボ以外の作図があると、トンボと誤認する可能性があります。「トンボ検出移動距離」を調整して、正しくトンボを読み取るように調整してください。(「トンボ検出移動距離を設定する」▶P5-14 参照)
- メディアの汚れ・ゴミ等は清掃してください。汚れやゴミ等を、トンボと誤認する可能性があります。
- トンボは、白いメディアに黒で描画するなど、読み取りやすいコントラストにしてください。白以外のメディアや光沢のあるメディアを使用する場合は、センサの読み取りレベルを調整してください。(「センサレベルを調整する」▶P5-20 参照)

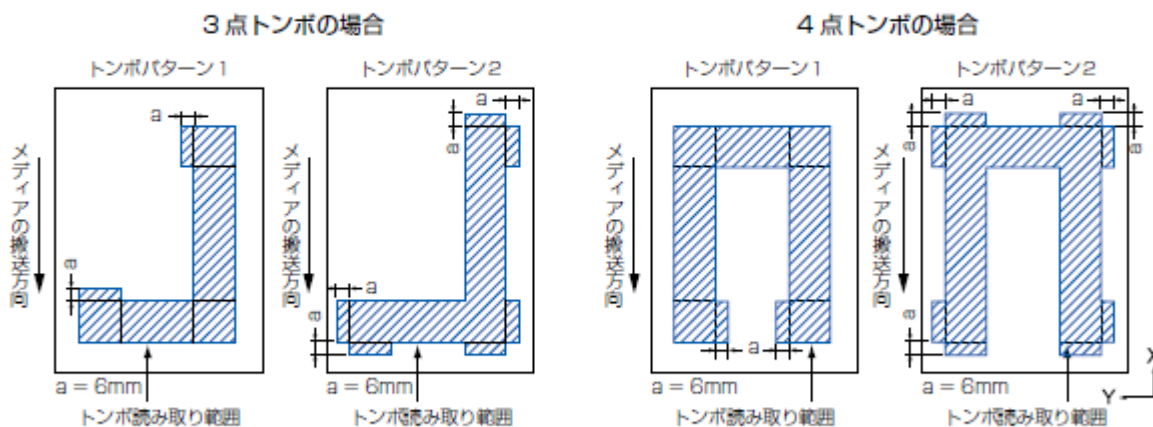
※上記補足事項の参照部分については、CE6000 Plus シリーズの取扱説明書を参照して下さい。

・FC8600 シリーズ

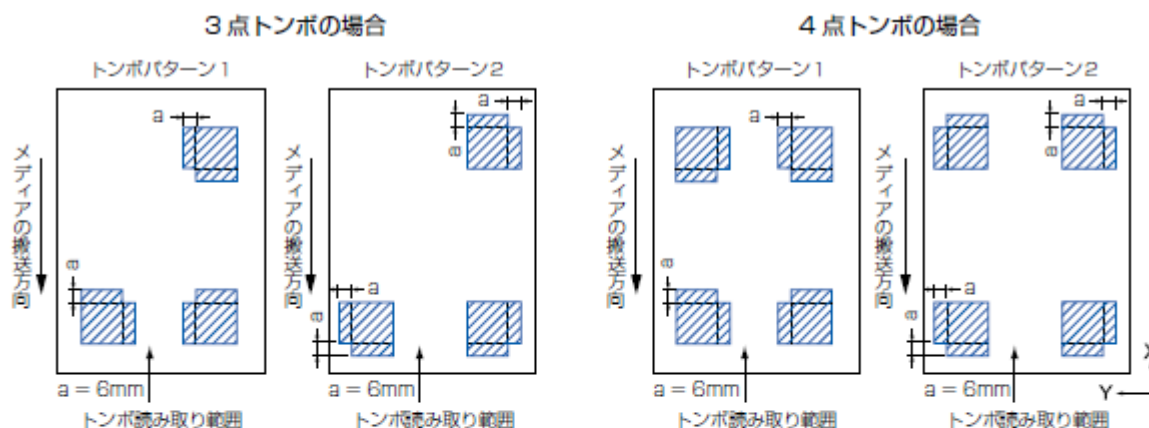
(*この機種種の Graphtec Studio2 の対応状況は動作確認のみ、動作保証なしとなっております。)

トンボ検出に必要な読み取り範囲

トンボを読み取るために、ツールキャリッジとメディアが移動するのに必要な範囲は、次の図のとおりです。



トンボ検出移動距離を設定した場合は、トンボ読み取りに必要な範囲は次の図のようになります。



補 足

- トンボの形状 (パターン) の変更は、「トンボの形状 (パターン) を設定する」 (P.5-9) を参照してください。
- トンボ検出移動距離の設定は、「トンボ検出移動距離を設定する」 (P.5-12) を参照してください。
- トンボ読み取り範囲にトンボ以外の作図があると、トンボと誤認する可能性があります。「トンボ検出移動距離」を調整して、正しくトンボを読み取るように調整してください。(「トンボ検出移動距離を設定する」 (P.5-12) 参照)
- メディアの汚れ・ゴミ等は清掃してください。汚れやゴミ等を、トンボと誤認する可能性があります。
- トンボは、白いメディアに黒で描画するなど、読み取りやすいコントラストにしてください。白以外のメディアや光沢のあるメディアを使用する場合は、センサの読み取りレベルを調整してください。(「センサレベルを調整する」 (P.5-18) 参照)

※上記補足事項の参照部分については、FC8600 シリーズの取扱説明書を参照して下さい。

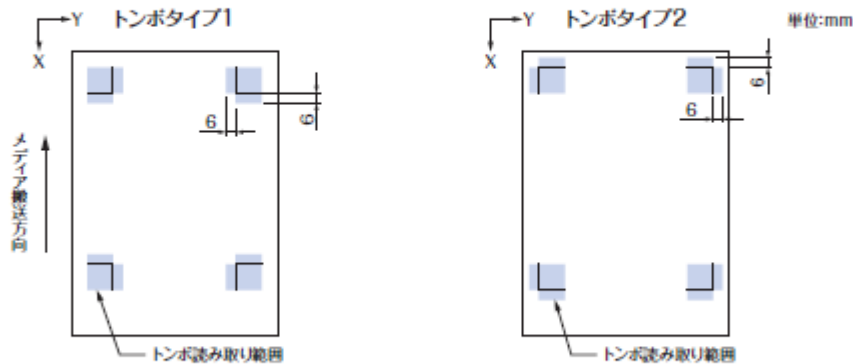
[<元のページに戻る>](#)

CE LITE-50

(*この機種の Graphtec Studio2 の対応状況は動作確認のみ、動作保証なしとなっております。)

トンボ読み取りに必要な範囲は、下図のとおりです。

- トンボ読み取り範囲にトンボ以外の作図があると、トンボと誤認する可能性があります。
- メディアの汚れやゴミ等は清掃してください。汚れやゴミ等をトンボと誤認する可能性があります。
- トンボは、白いメディアに黒で描画するなど読み取りやすいコントラストにしてください。白以外のメディアや光沢のあるメディアを使用する場合は、トンボの読み取り設定を調整してください。(「5.6 トンボの読み取り設定」参照)



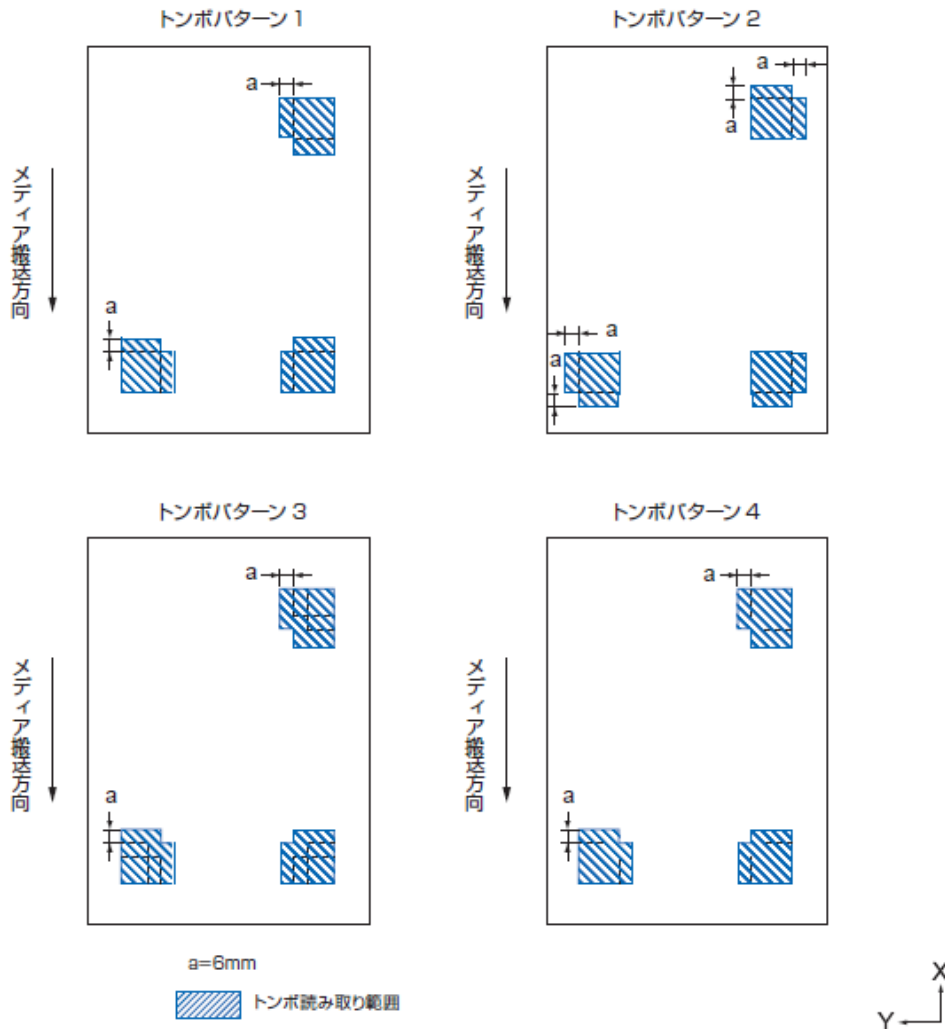
- トンボ検出エラーになる場合は、トンボの読み取り設定を行います。(「5.6 トンボの読み取り設定」参照)
- 専用アプリケーションを使用したトンボの作成に付いては、「3.5 トンボ作成からカットまでの流れ」を参照してください。

※上記参照部分については、CE LITE-50 の取扱説明書を参照して下さい。

トンボ検出に必要な読み取り範囲

トンボを読み取るためにツールキャリッジとメディアが移動するのに必要な範囲は、次の図のとおりです。
 下図の斜線部分には、プリントしないでください。

<3点トンボの場合>



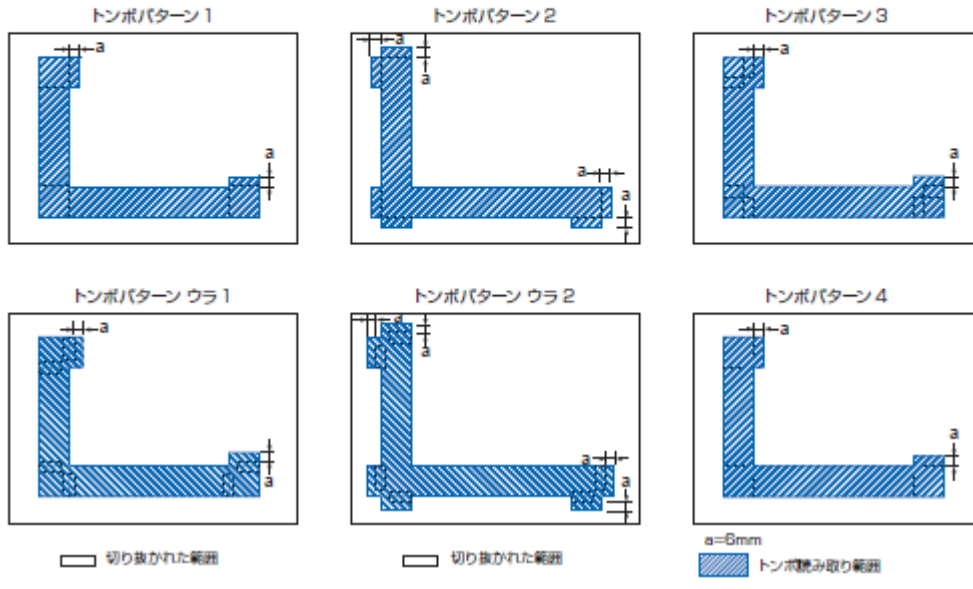
[<元のページに戻る>](#)

FCX4000 シリーズ/FCX2000 シリーズ

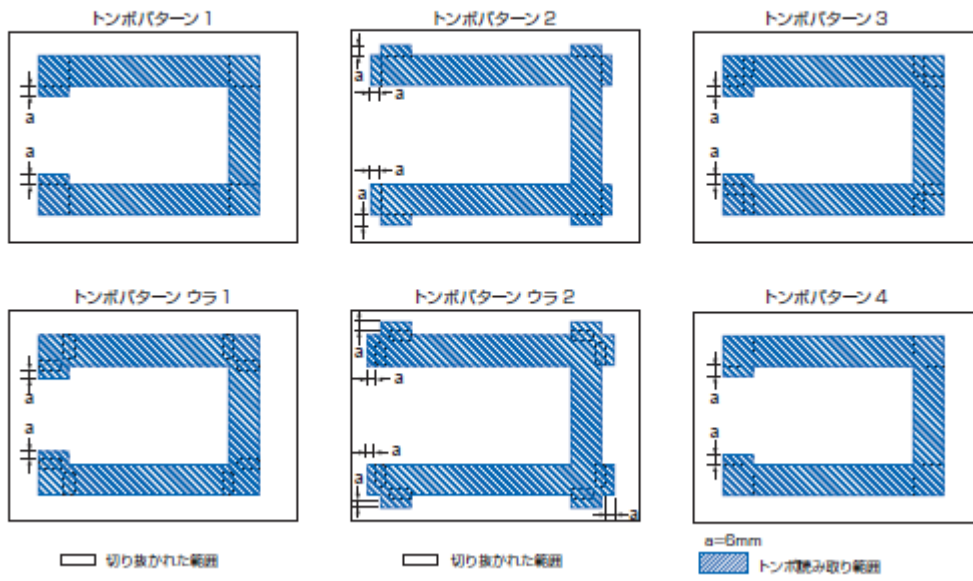
トンボ検出に必要な読み取り範囲

トンボを読み取るために、ツールキャリッジとメディアが移動するのに必要な範囲は、次の図のとおりです。
 下図の斜線部分には、プリントしないでください。

< 3点トンボの場合 >

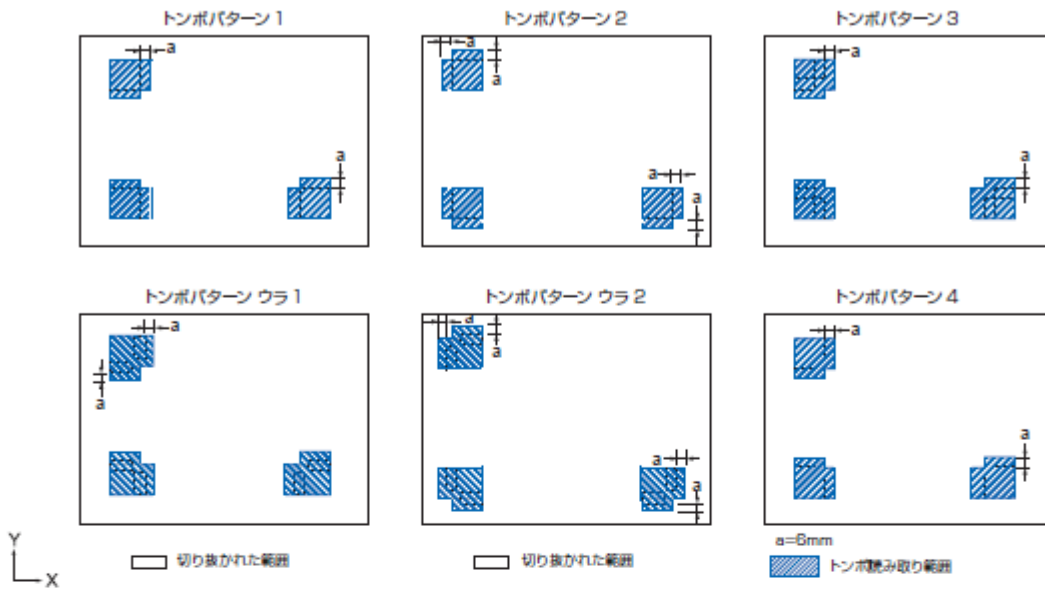


< 4点トンボの場合 >

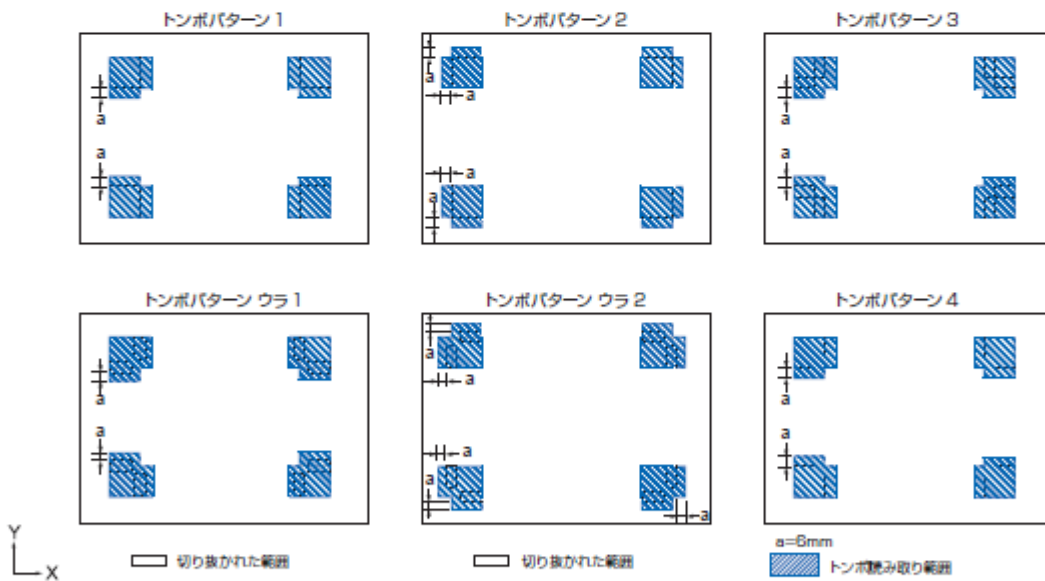


トンボ検出移動距離を設定した場合は、トンボ読み取りに必要な範囲は次の図のようになります。
 下図の斜線部分には、プリントしないでください。

< 3点トンボの場合 >



< 4点トンボの場合 >



補足

- トンボの形状（パターン）の変更は、「トンボの形状（パターン）を設定する」を参照してください。
- トンボ検出移動距離の設定は、「トンボ検出移動距離を設定する」を参照してください。
- トンボ読み取り範囲にトンボ以外の作図があると、トンボと誤認する可能性があります。「トンボ検出移動距離」を調整して、正しくトンボを読めるように調整してください。（「トンボ検出移動距離を設定する」参照）
- メディアの汚れ・ゴミ等は清掃してください。汚れやゴミ等を、トンボと誤認する可能性があります。
- トンボは、白いメディアに黒で描画するなど、読み取りやすいコントラストにしてください。白以外のメディアや光沢のあるメディアを使用する場合は、センサの読み取りレベルを調整してください。（「センサレベルを調整する」参照）

※上記参照部分については、各カッティングプロッターの取扱説明書を参照して下さい。

[<元のページに戻る>](#)

以上